



70年代初頭にウーマンリブが始まった頃、彼女たちはまだ20代、30代だった。己れの生きにくさにもがき、社会に向かい、「NO」と叫んでいた。あれから約半世紀の間、女たちは、自己と社会を肯定すべく、つよい意思をもって生きてきた。老年期を迎えた今もなお、みずみずしくフェミニズムを生きている。彼女たちは、時代に何を遺そうとしてきたか？ 次の世代に何を伝えようとしているのか？ 「ユキエ」「折り梅」「レオニー」の松井久子監督が、フェミニストたちの証言でつづる、ドキュメンタリー映画。上映時間110分。

立教大学ジェンダーフォーラム主催

## ドキュメンタリー映画『何を怖れる フェミニズムを生きた女たち』上映会 & 松井久子監督講演会

日時： 2015年10月3日（土）13：30～16：30

会場： 立教大学池袋キャンパス 7号館7102教室

入場料無料。下記ジェンダーフォーラムHPより事前にお申し込みください。（定員250名）

### 松井 久子 氏 略歴

1946年東京出身。早稲田大学文学部演劇科卒。雑誌ライター、俳優のマネージャー、テレビドラマ・ドキュメンタリー番組のプロデューサーを経て、1998年『ユキエ』で映画監督デビュー。2002年には2作目『折り梅』が劇場公開。全国で自主上映会が活発に行われ、2年間で100万人の動員を果たした。2010年11月全国劇場公開。2013年春から、アメリカをはじめ世界各国で公開される。2015年2月、初のドキュメンタリー映画『何を怖れる フェミニズムを生きた女たち』が公開され、内外で高い評価を得ている。



お問い合わせ先 立教大学ジェンダーフォーラム Tel/Fax: 03-3985-2307 E-mail: gender@rikkyo.ac.jp  
〒171-8501 豊島区西池袋3-34-1 立教大学6号館1階 <http://www.rikkyo.ac.jp/aboutus/philosophy/activism/gender/>